

欽明天皇 檜隈坂合陵鳥居改築工事に伴う立会調査

欽明天皇檜隈坂合陵は奈良県高市郡明日香村大字平田に所在する。当陵は墳長約 142 m の前方後円墳であり⁽¹⁾、遺跡としての名称は平田梅山古墳である。

今回の調査は、当陵の拝所内に設けられた木製の鳥居が経年のため劣化したことから⁽²⁾、これを石製の鳥居に改築することに伴って実施したものである（第 34 図）。なお、調査期間は平成 28 年 1 月 23 日および 25～27 日までの 4 日間であった。調査にあたっては、既存の木製鳥居の基礎除去および新規の石製鳥居の基礎施工に伴う掘削時に立ち会うこととし、調査箇所の平面図および土層断面図の作成や写真撮影をおこなった。

今回の工事に伴う掘削範囲は、既存の木製鳥居の基礎を除去し、新規の石製鳥居の基礎を施工するための余掘りを考慮して幅約 5.3 m × 長さ約 2.6 m × 深さ約 1.4 m となった。掘削範囲の大半は既存の鳥居を設置した際の埋土であったが、トレンチ状となった掘削範囲の四壁周辺ではそれ以外の土層も確認された（第 35 図、図版 29-2）。

確認された土層は、Ⅰ層：現在の拝所整備時の表土である茶褐色粘質土、Ⅱ層：延石施工時の埋土および基礎であるコンクリートや栗石を含む土層、Ⅲ層：既存の鳥居基礎を施工した際の埋土である土層、Ⅳ層：現在の拝所整備時の盛土と考えられる明黄褐色粘質土（地山をブロック状に含む）、Ⅴ層：現在の拝所整備時の盛土と考えられる青灰色砂質土～茶褐色粘質土（地山をブロック状に含む）の大別五層であった。

今回の調査箇所が含まれる拝所周辺は拝所以外の箇所と比べると 1 m 以上高くなっており、現在の拝所を整備する際に大量の盛土がなされたことを容易に推測しうるが、今回の調査において確認されたⅣ層およびⅤ層がその証左になるものと考えられる。なお、Ⅳ層とⅤ層とではⅤ層に青灰色砂質土が含まれるという点で差異がみられるものの、両者は拝所を造営する際の盛土に関する二つの大きな単位を反映しているものと判断した。

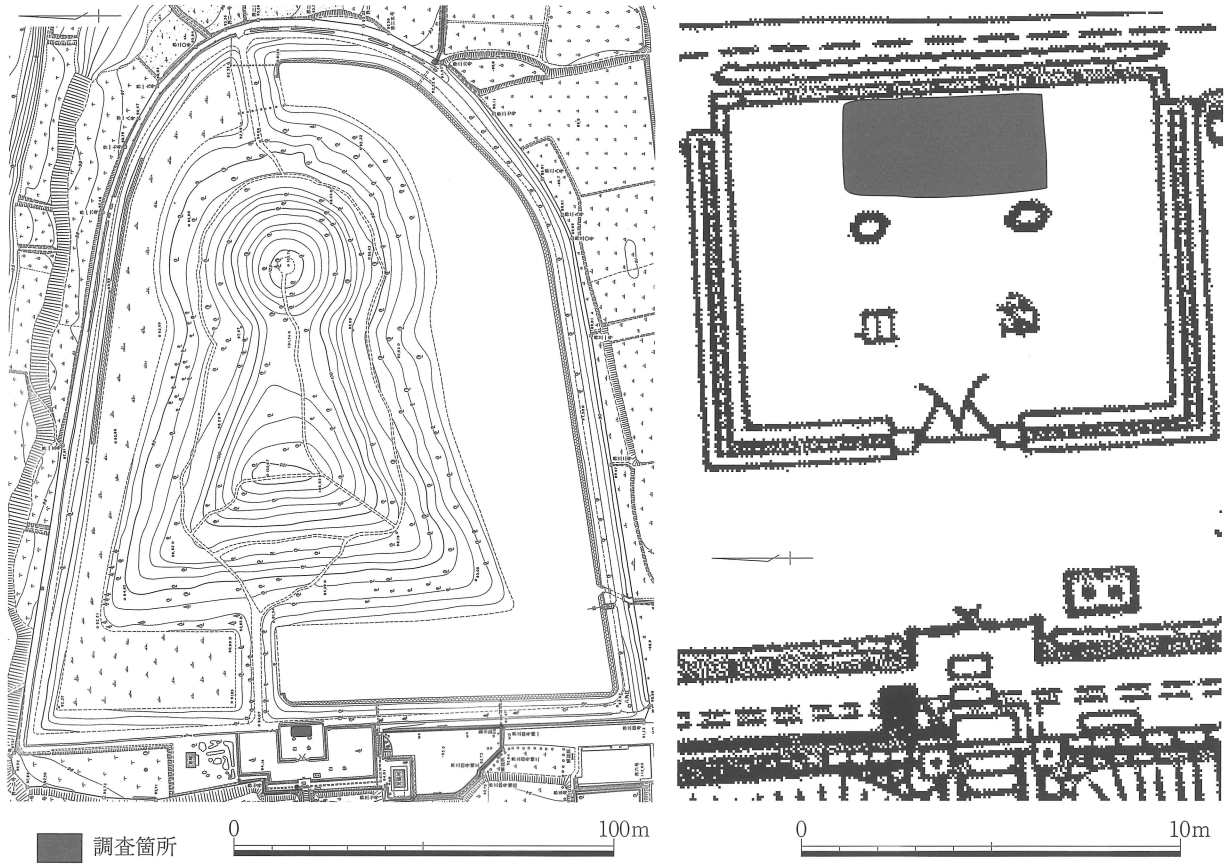
今回の調査において遺構や遺物は確認されなかったことから、工事は予定通り施工されることとなった。

（加藤一郎）

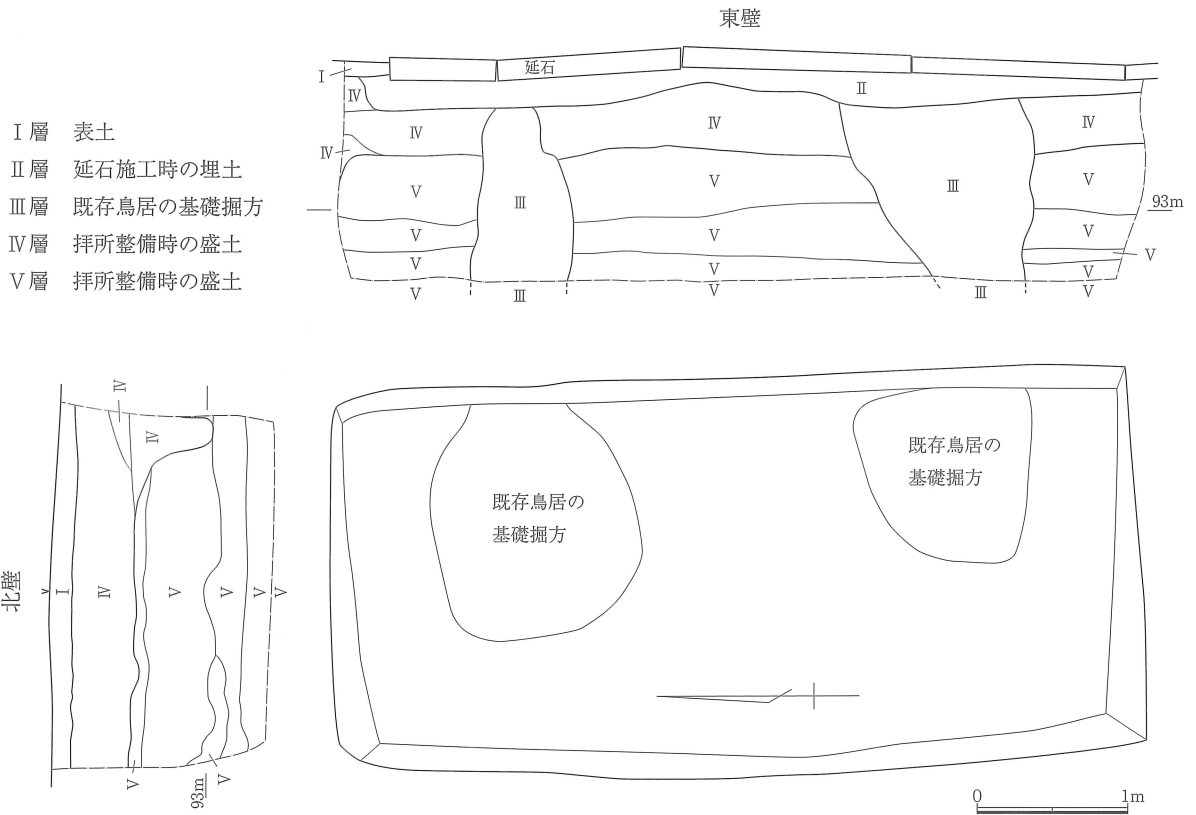
註

(1) 徳田誠志・清喜裕二「欽明天皇 檜隈坂合陵整備工事区域の調査」『書陵部紀要』第 50 号、宮内庁書陵部、1999 年。

(2) 既存の木製鳥居は昭和 59 年（1984）に竣工したものである。



第 34 図 檜隈坂合陵 調査箇所位置図 (1/2,000、1/200)



第 35 図 檜隈坂合陵 調査箇所平面図および断面図 (1/50)



1 桃花鳥田丘上陵 調査箇所全景（南から）



2 檜隈坂合陵 調査箇所全景（南西から）